万歳を殺を期す陸軍特別攻撃隊

十一月十三日の大本営發表は、我が特別攻撃隊萬朶飛行隊の第一陣が十二日朝、比島レイテ灣内の敵艦船を攻撃し、必死必殺の體當りを以て、戰艦一隻、輸送船一隻を撃沈した壯烈なる戰果を中外に明らかにし、續いて翌十四日の大本營發表は、富嶽飛行隊の第一陣が十三日の夕刻、ルソン島東方海面に敵機動部隊を捕捉し、同じく體當りを以て戰艦一隻を瞬時にして轟沈するの偉勳を樹てたことを報じた

さきに海鷲の神風特別攻撃隊の出撃あり、今また默々林の如き部けさで待機してゐた陸軍の特別攻撃隊、萬朶、富嶽兩飛行隊の出陣の報に接して、銃後一億の感動、感激は言語に絶するものがあつた。その感激、あの感動こそは、恐らく如何なる文學者といへども、これを文字に表現しつくせぬほど大きく且つ深いものであつたらう

と同時にまた、陸海の若鷲が渾然一體となり、必死必中、必死必殺の特別攻撃隊として決然と出撃した事實を聞いて、比島方面における陸海空の激戰が皇國の興廢を決すべき重大決戰であることを今更の如く痛感し、身の引緊り血の逆流するを覺えたものもあつたと思ふ

特別攻撃隊の出動がなにゆゑにかくも銃後國民の心底を搖さぶり、その胸奥を搔きむしつたのであらうか

それは彼等の出陣に『生還』がなく、彼等の攻撃が即ち死を意味するからである

人間としての一切の名利を捨て、人間としての一切の憂みを克服し、死を超え生を越えて彼等若き荒鷲が、ひたぶるに求めんとするものは何か

敢る時は名をこそ惜しめ、その名をすら顧みず萬朶の櫻花の如く敢然と散つてゆく若鷲が、一途に求めんとするものは何か

それは『日本の勝利』である。

存亡の岐路に立つ皇國を、富嶽の奏きにおかんがための勝利である。その勝利の礎石となるために、彼等は從容として『體當り』し、決然として『必死必殺』の强襲を行つてゐるのである

二

神鷲特別萬朶隊　將兵安今嬢然輝

一身輕然大任重　不怖死徒不求死

これは比島方面陸軍航空部隊指揮官富永中將が、萬朶飛行隊の出陣に當つてその壯途を祝した詩である。『死を怖れず、しかも徒らに死を求めず』の一句こそ、我が特別攻撃隊員の心境であらう。また菅原陸軍航空總監は

『萬一出撃しても、敵を發見できなかつたり、或ひは發見しても體當りするに不適當な獲物であつた場合には、深く基地に歸つて來い。斷じて死に急ぎをしてはならぬ』

と訓した

かうした親鷲達の日頃の訓育は、既に死を決心してゐる若鷲達の心を一層清淨なものに高め、同時に心の餘裕を與へもし、乾坤一擲の突撃をして快心のものたらしめてゐるのである

それゆゑに萬朶、富嶽、八紘等の陸軍特別攻撃隊の隊員達の出陣には、一點の興奮も一片の猶豫もない、まことに淡々たるものであつた。しかも一たび戰場上空に發到するや、彼等の戰果確認の任務を帶びて行を共にした新司偵機や、直掩戰闘機の搭乘者の目撃談によれば、一機また一機と雲間から敵艦船めがけて眞一文字に、爆撃機としては到底考へられないやうな急降下を續け、機身一如、身彈一體の體當りを敢行した。その闘魂爆發の神神しい姿には、思はず熱涙の迸るを禁ずることができなかつたといふ

三

想ふに萬朶隊といひ、富嶽隊といひ、特別攻撃隊全員を貫く體當り精神は、全陸軍の將兵を貫く精神である

ビアク島沖で敵輸送艦と刺し違へ、全機體當りを以て突撃した高田戰闘機隊、或ひはカーニコバル諸島沖で凱機英宅毎に體當りして一瞬に撃沈した阿部信弘中尉機、北九州侵入のB29に體當りした野邊軍曹機、印度洋上の我が輸送船を襲つた敵魚雷に體當りして危急を救つた石川清雄曹長機、更にはガタルカナル島の大野挺進隊をはじめ、サイパン、アニヤン、大宮、ペリリュー、モロタイ等々の島嶼戰にみられる肉薄斬込み挺進隊……これら陸に空に海に敢行されてゐる體當りは、いづれも皇軍獨特の精神力を以て、物量の老大に醉ひしれる敵を壓倒し去らんとする陸軍魂の發露にほかならない

レイテ島の戰雲いよ〳〵濃く、皇國は今やまさに興廢の岐路に立つ。祖國の危機を突破せんと盡忠の熱血火と燃ゆる陸軍特別攻撃隊は蹶起した。萬朶、富嶽、八紘……と後から後から陸續と決戰場に赴かんとする昭和の神公の雄々しい姿！

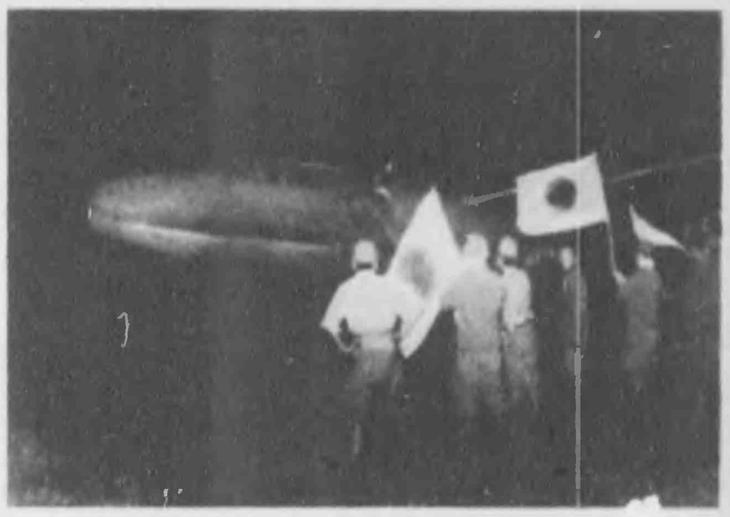
われとそは必死必殺を期する全軍の先鋒たらんと移轉く幾百千の神公！

あゝわれ〳〵もまたこの特攻精神を體して銃後の使命を完遂し、この決戰を闘ひとほらう

岩本萬朶隊長遺詠

大君の勅かしこみ今日よりは
大弾とかけりて吾は征くなり

武夫はちるもめでたき櫻花
花をも香をも人ぞ知るらむ



㊀ 感激ついて發進

出撃を前にして感慨深げに語る富嶽飛行隊長西尾少佐（右から）笹田少將、（一人おいて朱津少將）㊁

大本營陸軍報道部